

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第4回 都市整備部会
日時	平成22年11月29日(月)午後3時00分から午後5時15分
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室19
出席者	作業部会員 (敬称略)
	関係課員

会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第3回 都市整備部会 会議概要について
- 4 市民フォーラム21 第3回 都市整備部会 ワークショップまとめについて
テーマ：政策6-1 いきいきと暮らせるまちづくりの推進
- 5 本日の日程等について
- 6 ワークショップ
テーマ：政策6-2 まちを結ぶ快適なネットワークの形成
- 7 その他
- (1) 今後の予定について
- 8 閉会

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 4 市民フォーラム21 第3回 都市整備部会 ワークショップまとめについて
「政策6-1 いきいきと暮らせるまちづくりの推進」をテーマにワークショップで検討した意見のまとめについて、修正の発言があり、資料1のとおり修正した。（第3回 都市整備部会11月8日開催）
質疑等
 - (1) 資料1で、項目別に分割した意見を最終的に集約しているのは、なぜか。
意見を明確化し分類整理するために、項目別に分割しているが、今後検討する後期基本計画の大綱（案）では、要素をまとめる予定のため、集約した。
 - (2) 資料1で、意見を8つの大項目に整理しているが、それぞれの大項目は、同じレベルではないと思う。まとめたりすることはできるのか。
今後、後期基本計画の体系づくりにあたり、検討していく。
- 5 本日の日程等について
ワークショップには、当初の予定では参加しないこととしていた専門部会員も含め、出席者全員でワークショップを開催することとした。
- 6 ワークショップ
テーマ：政策6-2 まちを結ぶ快適なネットワークの形成
出席者全員1グループで、ワークショップを実施し、別紙のとおり意見等を発表した。

政策6-2 まちを結ぶ快適なネットワークの形成

交通体系

共通

既存の交通体系を骨子とし、それを最大限活用するネットワークの構築が必要である。

既存の交通インフラをいかすような公的支援が必要ではないか。

10年先、20年先の将来を考えた、交通体系の構築が必要である。

高齢化に伴い、公共交通機関の必要性はますます高まる。

高齢者は、免許を返納したらどうか。

公共交通機関の料金が高く利用づらい。

長野地区中心市街地以外の公共交通機関が不足している。

鉄道とバスは、長野駅を中心にしており、横の連絡が少ない。

市民が便利に利用できる交通ネットワークの構築が必要である。

運賃と本数の面で、気軽に使えるネットワークがあると良い。

市民の交通手段の確保のために、民間事業者へ公的支援をどの程度行うかのバランスが重要である。

財政状況が厳しい中で、どの程度の公共の負担が適正かという判断が必要である。

市内の移動が車を使わないとまらない。

自家用車一人1台が当たり前であるため、公共交通機関が発達していない。

マイカーに過度に頼らず生活ができる交通環境の整備が必要である。

車社会の中で、いかに公共交通の利用者を増やせるか。

共助のため、マイカー利用者に相応の負担(課税等)はどうか。

マイカー通勤者は、できる限りバス通勤へ転換する。

市の職員は、マイカー通勤をしないことを原則としている。

社員の通勤に、マイカーではなく公共交通機関を利用している企業に補助金を出す。

自転車

最近、特に、若者の自転車の右側通行が目立ち、危険であり、交通ルールは守るべき。

自転車の交通マナーの再教育が必要ではないか。

各バス停に駐輪場を設けた方が良い。

長野駅西口・東口の自転車駐輪場の整備をする。

長野駅前駐輪場の整備をする。

長野駅前駐輪場の整理をする。

長野駅前の放置自転車対策として、駐輪場を有料にする。

自転車利用を推進するのであれば、公共交通機関に持ち込める等の体制にすべき。

環境対策を兼ね、自転車購入者へのエコ補助金を導入してはどうか。

観光バス

長野駅～善光寺～戸隠～松代等、観光客向けの定期観光遊覧バスを導入する。

観光地間の移動がスムーズではない。

観光地から観光地に行くための連携がない。

定期観光バス 観光地を結ぶバスは、かつてあったが、利用者が少なかった。

道路

インフラ整備・市民への普及は十分に行政的役割を果たせている。

オリンピック開催等により、都市計画道路が整備され、便利になった。

都市計画道路 栗田安茂里線が開通し、便利になった。

道路整備により、便利になる。

道路整備により、混雑は緩和されるが、交通サービスの向上で、更なる交通需要を生み出す。

高齢者にとって、車は重要な交通手段なので、運転しやすい道路が必要である。

時差出勤等、渋滞回避のためのソフト施策が必要である。

安全対策や渋滞緩和のソフト施策が必要である。

鉄道

北陸新幹線という巨大インフラをどう活かすのか。

総合計画策定に、長野以北並行在来線の存続のスキームの早期決定が必要ではないか。

鉄道の本数が少ない。

鉄道は、通勤・通学者への利便性を考えて、ダイヤを作成する。

路線バス等

長野地区中心市街地のぐるりん号は、料金が安くて、本数が多いのが良い。

バスの本数が少ない。

バスの最終便が早すぎる。

バスの料金が高い。

長野駅から善光寺口のバス乗り場が分かりやすい。

目的地へのバスの乗り方が分からない。

長野駅等で、どのバスに乗れば良いのか分かりにくい。

バスの路線図があるが、PRが不足している。

ICカードの導入計画があり、利便性の向上につながる。

年間で定額料金にすれば、バス利用が増えるのではないか。

バスターミナル等が有効利用されていない。

バス交通の核となる施設が不足している。

中・長距離バス等の拠点が必要である。

長野駅東口に複合交通センターの建設を促進し、バスターミナルの機能を付加する。

中山間地域では、住民自らが運営する福祉バスがある。

福祉バスではなく、路線バスを充実した方が経費は安くなる。

タクシー

タクシーが流れていない。

観光都市なので、タクシーは流した方が良い。

タクシー利用者が少ないため、タクシーを流すと厳しい。

高齢化で、運転ができず、家族に頼れない状況では、タクシーを活用できるよう、タクシー料金の低減化が必要である。

情報通信

情報インフラ整備は、日々進んでいる。

ケーブルテレビの施設整備により、ブロードバンド利用可能エリアが拡大されてきた。

地理的条件の厳しい中山間地域では、ブロードバンド化が困難な地域がある。

民間事業者に、引き続きブロードバンド化の要請を行う。

無線等、新しい通信の利用研究を行う必要がある。

情報機器を利用しやすいものにしていく必要がある。

情報インフラを利用する人は限られている。

高齢者・インターネット初心者には、情報通信サービスを利用できていない。

高齢者・インターネット初心者には、情報通信サービスのサポートを受けられていない。

インターネット講座を開催しても、高齢者・初心者が受講するとは限らない。

フルネットセンターでは、高齢者・初心者を対象としたインターネット講座を開催している。

フルネットセンターには、インターネットを体験できるコーナーがある。

都市内のネットワーク化

合併地区を含め、市全体が真に融合するためのネットワークづくりが必要である。

市域が広大なため、いくつかの拠点地区を整備し、情報、交通等で結んでどうか。

長野地区中心市街地

長野市のまちの核である中心市街地を、住宅・緑(公園)・歴史等、魅力あるものにする。

観光

英語標記(サイン)が少なく、外国人に不便と言われた。

まちづくりに関すること

インフラ未整備地域・支援対象地区の10年後のランドデザインをしっかりと検討する。

土地利用

各駅周辺で、その利便性をいかした土地利用が必要ではないか。